

第3回検討委員会における主な意見等（概要）

産業人材の育成・供給の強化策について

（専攻科は）工業系に進みたいという子どもたちにとっては、本当に入りたい学校になると思うので、ぜひPRして、いい人材を山梨県に留めるようにしていただけたら本当にありがたい。

高専については、10年先の話になるので、とても間に合わない。

専攻科によって工業高校のレベルアップをし、人材を産業界に送り込んでいただくのが良い。

実践的な人材を、スピード感をもって育成していただければありがたい。

地元で育って、愛着を持った中で、地元の企業に就職してもらう教育が必要。

山梨大学、産業技術短期大学校、この2つをもっと強化していくことも大事。

工業高校の専攻科や産短大を含め、社会人の学び直しの制度をつくることは大事。

海外では社会人が資格をとるために再教育を受けることは普通に行われており、こういう資格を取ったら、こういう待遇になるということがはっきりと認識されている。教育機関が受け入れ体制を整え、企業が昇格や昇給などで応えるシステムができるといい。

高校教育の中で、できるだけ県内の製造業に就職するような教育をしてくことが大事。

進学者が、山梨にある大学や産業技術短期大学校に進学するようなシステムを組むことが課題。

この委員会に参加し、皆様のご意見を伺っていると、それぞれの「思い」と、「魅力づくり」と、「将来性」と、あと問題は「覚悟」だと感じた。親御さんの思いは、やはり近くにいて一緒に暮らしたいということだろうし、目の届くところにいたいということもある。会社の思いは、優秀な人材が欲しいということ。子どもの思いは、やはり魅力ある学校に行って、魅力ある会社に入って、自分の将来性がどの程度かということ。

保護者が今、何を考えているかということ、安心ということ。

子どもたちは安心できる就職先、安定感のある就職先に行きがちな状況にある。

これからの（人材育成・供給の）システムをつくるときに、やはり一番大事にしていかなければならないのは、実際進学して就職していく子どもたちの安心感を、どのように見える化できるかということ。

若い人材が入って来ないと、企業も活性化しない。